

がんセンター だより

Tochigi
Cancer Center
Dayori

2021

11

月号

vol.
21



表紙写真：看護部長と事業系センターに所属する看護師
※撮影のためマスクを外しています

- P.1 ・副病院長就任のご挨拶
- P.1-3 ・看護師が活躍する事業系センターのご紹介
- P.3 ・ロボット手術100症例達成しました
- P.4 ・がん施設検診のご案内
・Oncology Web Seminar in 2021の開催について

地方独立行政法人
栃木県立がんセンター



副病院長就任のご挨拶

副病院長兼看護部長 藤井 貴美子

4月1日付けで副病院長兼看護部長を拜命いたしました藤井貴美子でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当センターは2016年に県立病院から地方独立行政法人に移行しました。今年度で開設から35年、独立行政法人として6年目を迎えます。県内唯一のがん専門病院として、県民の皆様には選ばれる病院を目指し 1.質の高い医療の提供 2.安心で安全な医療の提供 3.患者・県民の視点に立った医療の提供 4.人材の確保と育成 5.地域連携の推進 6.地域医療への貢献に取り組んでいます。

看護部は1986年の開院から「私たちは、優しさと思いやりに満ちた心で看護をいたします」の理念のもと看護を実践しています。基本方針は 1.高水準の看護を提供する 2.自己実現できる人間性を養うであり、専門職業人として高水準の看護の提供と、自己実現できる人間性を養うことを目標としています。

開院当時から振り返ってみると治療に伴う在院日数の短縮、病名告知や意思決定、アドバンス・ケア・プランニングなど医療を取り巻く環境は大きく様変わりしました。少子高齢化が進む社会の中で、治療を受けながら生活する場も多様化する現在だからこそ患者さんの一番身近な存在として、一人ひとりに寄り添い看護する姿勢は変わることなく、大切にしていきたいと考えています。「優しさ」が示す意味の通り、相手を思いやる気持ちを持ち行動できること、誰にでも平等に、相手が望む方法でさりげなく手を差し伸べられる看護師の育成を目指しています。キャリアラダーやマネージメントラダーをはじめ、専門職として、自己のキャリアを展望し努力する一人ひとりを支援していきたいと考え取り組んでいます。専門職である看護師は院内各所で、様々な形で患者・家族の皆さんと関わっています。看護師というと、外来や病棟、手術室などが活躍の場として広く認識されていますが、求められる能力はより専門化・細分化が進んでいます。また、専門病院ならではの活動の場もありますので、このあと看護師が活躍する場をご紹介します。病棟・外来部門をはじめ院内各所で活躍する看護師をどうぞ、応援していただきたいと存じます。

医療現場は、昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、感染対策をはじめ診療材料の不足などこれまでに経験したことない状況に置かれています。面会制限など患者・家族の皆様にもご不便をおかけし、大変心苦しく思っております。皆様が安心して治療を受けられる環境を担保し、がん治療を継続することが当センターの役割と認識し職員が一丸となり取り組んでいます。今後とも、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



看護師が活躍する事業系センターのご紹介

がんリハビリテーションセンター
内視鏡センター
入退院センター
化学療法センター
TQMセンター
がん相談支援センター
希少がんセンター

- 1 医療安全推進センター
- 2 臨床試験管理センター
- 3 緩和ケアセンター
- 4 地域連携センター
- 5 研修センター
- 6 ゲノムセンター
- 7 ロボット支援手術センター

外来や病棟、手術室はもちろん、多くの事業系センターで看護師が活躍しています。看護師が活躍する事業系センターのうち、左の7センターをご紹介します。

1 医療安全推進センター

所属Ns:副師長 宮原 秋 (GM)、副部長 永井 智恵美

私達は、厚生労働省機関である国立保健医療科学院の専門課程医療安全管理専攻科を修了した看護職医療安全管理者です。本専攻科は、良質な医療を提供するための基本的、専門的知識・技術を学び、地域における医療提供体制の質の向上に貢献し得る人材を育成することを目的とした国の教育機関で、栃木県の履修者は4名、全員が栃木県立がんセンターの看護師です。

医療安全管理者は、直接的に患者さんの医療や看護に従事しませんが、安全の専門家として現場と密に連携しながら組織横断的に活動しています。現状確認や分析、良質なチーム医療を提供するための仕組みや文化の構築、現場支援や教育活動などを通して患者さんと職員の安全を守っています。



2 臨床試験管理センター

所属Ns:師長 池田 仁美 (GM)、主任 半田 理奈

臨床試験は患者さんを対象に、新しい治療や診断法等の有効性や安全性を評価する目的で行われる研究です。研究だからこそ倫理的・科学的に実施する必要があります。患者さんの立場を代弁する看護師が臨床研究コーディネーターを担う意義は大きいと考えます。新薬開発や標準治療法の確立で、がん患者さんの生存期間延長やQOL向上に寄与していることは、私たちの大切なモチベーションであり、今まで参加いただいた多くの患者さんに深く感謝しています。

当センターの特徴は、多職種コーディネーターで構成されていることです。特徴を活かして部門調整を円滑に行い、臨床試験におけるチーム医療を推進しています。



医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務による多職種構成です

3 緩和ケアセンター

所属Ns:師長 檜山 孝子 (GM)、副師長 片岡 砂織、副師長 松本 幸絵

都道府県がん診療連携拠点病院の診療機能強化に向けた要件として2016年に設立されました。がん看護専門看護師/がん化学療法看護認定看護師1名、緩和ケア認定看護師1名、がん性疼痛看護認定看護師1名が所属し、主に以下の3つの医療を提供しています。

□ 緩和ケア外来

医師の診察に看護師が同席し、緩和ケア病棟の説明や療養場所の相談などを行っています。

□ 緩和ケアチーム

入院中の患者さんやご家族へ、専従看護師が中心となり、医師、看護師、薬剤師、心理士など多職種によるチーム医療を提供しています。

□ 緩和ケア病棟

緊急入院患者さんへの対応や病棟との連絡調整などを行っています。その他、地域医療機関との合同カンファレンス、リンクナース会の運営、苦痛のスクリーニングの実施などを行っています。



4 地域連携センター

所属Ns:師長 浦田 朋美 (GM)、主任 佐藤 友代

地域連携センターは「当センターと地域の病院・施設をつなぐ部署」です。現在、地域連携センター長でもある医師をはじめ、地域連携センター専従の看護師2名、医療ソーシャルワーカー、事務職員、薬剤師、渉外業務専門員で構成されています。

これらの多職種チームで、患者さんがスムーズに医療機関へ受診・入院できるように、また退院・転院することができるように、医療機関、介護施設をはじめ、行政や福祉にかかわる多くの施設を繋ぐ役割を担っています。

後方支援業務では退院調整看護師と医療ソーシャルワーカーが中心となり、患者さんが安心して療養できる環境を選択できるよう支援しています。



5 研修センター

所属Ns: 師長 上野 知子 (GM)

研修センターは、「高い倫理観と熱意をもった医療人を育成する」ことを掲げ、2016年に新たに創設されたセンターです。

主な業務は新規採用者研修、院内職員研修、グランドカンファレンス、院外医療従事者研修会、学生・研修生の受け入れなどです。

今年度は、がん専門病院として、がん医療における最新の知識と技術を有する人材を育成するため、体系的に部門別研修やテーマ別研修を行うなど研修内容の充実を図ることを目的とし活動を行っています。また、都道府県がん診療連携拠点病院として栃木県内のがん医療水準向上・均てん化の推進を図る目的で行っている、院外の医療従事者を対象とした研修会を新たにWeb開催として始めました。



6 ゲノムセンター

所属Ns: 副師長 青木 幸恵 (GM)

がんは遺伝子の異常により生じる疾患です。遺伝子解析の結果はがんの診断・治療を考える上で有用な情報です。ゲノムセンターでは、がんの組織で後天的に生じた遺伝子異常と生まれつきの遺伝子異常の検査を行います。遺伝子検査の結果により薬剤治療の適応や決定のほか、遺伝性腫瘍が疑われる患者さんには遺伝カウンセリングを行っています。

遺伝性腫瘍の患者さんは生涯にわたり病気への不安をかかえていきます。そのため診断・治療・予防に対して意思決定支援と生涯にわたるサポートが必要です。私は、ゲノム医療を必要としている患者さんやご家族に対し、正しい情報提供や検査の準備、検査結果から今後の治療につなげることを役割として活動しています。



7 ロボット支援手術センター

所属Ns: 副師長 橋本 綾子 (GM)

2020年9月から貫井センター長、小澤副センター長の支援をいただき当センターでもロボット支援手術がスタートいたしました。現在、5科（泌尿器科、大腸骨盤外科、食道・胃外科、婦人科、呼吸器外科）でロボット支援手術が行われております。2021年9月末日現在、122例の手術実績があります。最先端医療をより安全に行うため、診療材料の管理やマニュアル作成・更新を主治医や手術チームスタッフと協力し、随時行っております。不定期開催ではありますが、ロボット支援手術センター会議を実施し各診療科のロボット支援手術情報の共有や、今後に向けてのカンファレンスも行われております。



ロボット手術100症例達成しました

2020年9月から手術支援ロボット「ダビンチ (da Vinci)」による手術を開始しましたが、2021年7月に100症例を達成しました。

ダビンチによる手術は、泌尿器科を始め、消化器外科（大腸骨盤外科、食道胃外科）、婦人科、呼吸器外科で行っています。



がん施設検診のご案内

当センターではがん施設検診を実施しています。

5大がんの検診項目の他に、肝、胆、膵、甲状腺、前立腺などのコースがあり、オプション検査として各種腫瘍マーカー検査等を実施しています。

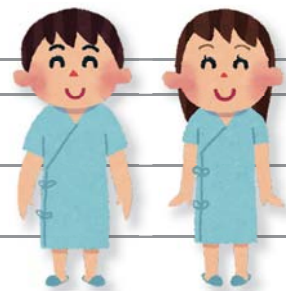
2017年11月からは、口腔がん検診を開始しています。

特徴

当センターのがん検診は、一般診療の枠組みの中で行います。
各検査には、当センターの検査担当者があたり、一般診療受診者と同等の質の検査を提供します。検査時に詳しく調べる必要があると判断された場合は、一般診療受診者と同様に追加検査を行う場合があります。

コース内容

コース名	検査内容	オプション
●肺コース	胸部CT検査	喀痰細胞診検査
●甲状腺コース	甲状腺超音波検査	血液検査 甲状腺関連ホルモン (FT3、TSH、サイログロブリン)
●食道・胃コース	上部消化管内視鏡検査	糞便中抗原測定 (ヘリコバクタ・ピロリ菌) 検査
●肝・胆・膵コース	腹部超音波検査	血液検査 肝炎ウイルス関連 (HCV-RNA、HBV-DNA)
●大腸コース	下部消化管内視鏡検査 便潜血検査	
●前立腺コース	腫瘍マーカー (PSA)	
●乳腺コース	乳腺超音波検査 マンモグラフィ検査	
●子宮頸部コース	内診 子宮頸部細胞診検査	ヒトパピローマ核酸検査
●口腔コース	顎X線検査 口腔内診察	



オプション血液検査 (各コースに追加できます)

腫瘍マーカー、一般A (末梢血、肝・腎機能など)、一般B (末梢血、肝・腎機能、糖など)、一般C (末梢血、肝・腎機能、糖、脂質など)

※詳細はホームページを御確認ください (<http://www.tochigi-cc.jp/consultation/07.html>)



Oncology Web Seminar in 2021の開催について

第2回

日時：2021年12月11日 (土) 13:30～16:00

申し込み期限：12月6日 (月) 17:00

テーマ：放射線治療技術 線量計測の基礎

参加対象者：放射線技師 定員：10名程度

講師：栃木県立がんセンター

放射線治療品質保証室 伊藤 憲一

第3回

日時：2022年2月5日 (土) 13:30～16:00

申し込み期限：2月1日 (火) 17:00

テーマ：がんゲノム医療

参加対象者：看護師 その他医療従事者

講師：栃木県立がんセンター

乳腺外科医長 竹前 大

副看護師長 青木 幸恵



参加費：無料

申し込み先：栃木県立がんセンター 研修センター

申し込み方法：ファックスまたは電話 Tel: 028-658-5151 (代) Fax: **028-611-5505**

*本セミナーはZoomによるWeb配信で開催します。

*参加用URL等のアクセス情報や注意事項は、参加登録完了後にご案内します。

*研修内容の録画・録音・撮影等はお控えいただきますようお願いいたします。

*本セミナーは医療従事者向けの内容のため、ご視聴環境についてはご配慮ください。

※詳細はホームページを御確認ください (<http://www.tochigi-cc.jp/other/31.html>)



